

タケダのカーボンオフセット調達への アプローチ

背景：

気候変動の影響はますます目に見える形で現れつつあり、世界中の人々の健康とウェルビーイングにすでに悪影響が及んでいます。酷暑による被害は、1990年以降、世界のあらゆる地域で増加の一途をたどっています。2017年の1年間に全世界で熱波にさらされた人は、前年と比べて1,800万人増加しました。異常な暑さによって失われた労働時間は推定で1,530億時間に上り、国家経済や現地の生活に影響を及ぼしています。暑さ以外にも、2017年には700件を超える異常気象が発生し、関連する経済的損失は2016年の3倍となりました。このような気温および降水量の変化によって、生物媒介感染症や水系感染症の伝染しやすさが大きく変化する可能性があります。例えば、バルト海や米国北東部の一部沿岸地域では、コレラを引き起こす病原体が1980年代と比べてすでに25%生息しやすくなっています。また、このような気温および降水量の変化は、私たちの食料生産能力にも影響を及ぼす可能性があります。研究によると、農業生産力は世界のあらゆる地域で低下しており、数十年間にわたって改善してきたものが反転してきています。増加する熱波、異常気象、生物媒介性感染症という目に見える兆候と、労働生産力の低下および食料安全保障の悪化とが相まって、世界保健機関は、気候変動を21世紀のグローバルヘルスに対する最大の脅威としています¹。

タケダのコミットメントおよびアプローチ：

世界中の人々の健康と医療の未来に貢献することにコミットメントしているグローバル製薬企業として、私たちは、気候変動が重要なグローバルヘルス問題の一つであると認識しています。また私たちは、異常気象や海面上昇によってもたらされる現象が、当社の事業活動、施設およびサプライチェーンに悪影響を及ぼす可能性があることを認識しています。そこで、私たちは気候変動に対する行動として高く野心的な自社基準を設け、バリューチェーン全体でカーボンニュートラルを達成するため2040年の目標を掲げました。タケダは、事業活動における温室効果ガス（GHG）の排出をカーボンオフセットなしでゼロにし（スコープ1および2）、サプライヤーと協働して排出量を大幅に削減し（スコープ3）、スコープ3の残りの排出量を検証済みのカーボンオフセットで相殺することで、この目標を達成します。加えてタケダは、気候変動によりもたらされるグローバルヘルスに対する差し迫ったリスクを踏まえて、当社の事業活動およびサプライヤーからの排出量の削減に取り組むとともに、2019年度から、再生可能エネルギーおよび検証済みカーボンオフセットの購入を通じたカーボンニュートラル（スコープ1、2、および3）を達成します。高品質なカーボンオフセットの調達は、気候変動が私たちの事業活動に及ぼす影響を軽減するための当社の包括的戦略の一部です。

¹ 2018年ランセット・カウントダウン・レポート、<http://www.lancetcountdown.org/>

タケダは、自社の気候目標の達成に向けて、IEMAの温室効果ガス（GHG）管理ヒエラルキー²を採用します。

1. 回避：私たちは、ビジネス上の意思決定が温室効果ガス排出量に及ぼす影響を評価し、影響がより小さくなる取り組みを選択します。
2. 削減：排出を回避できない場合には、エネルギー効率化および省エネルギー活動、または業務の見直しを通じて、温室効果ガス排出量を削減します。
3. 代替：排出を回避または削減できない場合には、従来型のエネルギーおよびテクノロジーに代えて、再生可能エネルギーおよび低炭素テクノロジーを活用します。
4. 相殺：排出を回避、削減または代替できない場合には、高品質なカーボンオフセットの購入を通じて、残りの温室効果ガス排出量を相殺します。

本文書では、タケダのカーボンニュートラルへのコミットメントを果たすための、カーボンオフセットの選定と調達に関するガイドラインおよび主なコンセプトについて説明します。

カーボンオフセットの概要：

カーボンオフセットとは、温室効果ガスの排出量を削減する活動に投資することです。温室効果ガスの排出削減量は、二酸化炭素換算（CO₂換算）で1トンの排出量に相当するカーボンオフセットを1単位として表されます。これは、温室効果ガスの削減量を表す、計測可能、定量化可能、かつ追跡可能な単位です。

カーボンオフセットは、排出量を削減するプロジェクトを通じて生成されます。カーボンオフセットを提供するプロジェクトの大部分は、カーボンオフセット認証基準によって定められたルールや手続きに従っています。プロジェクトがそれらの条件を満たした場合には、当該基準に基づいて、排出削減量に相当する単位数のカーボンオフセットが発行されます。このカーボンオフセットを調達した者は、自社のスコープ1もしくは3の排出量にこれを適用し相殺することができます。

カーボンオフセットプロジェクトの主たる目的は気候への有益性ですが、多くのカーボンオフセットプロジェクトでは、同時に社会および環境に対しても有益である、ということは重要な点です。これらの気候や社会、環境に対する有益性は、多くの場合、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に沿ったものであり、地域の健康改善、生物多様性、および生態系の保全、ならびに現地の経済的機会およびスキルアップの提供につながるものです。

² 2010年IEMA特別レポート - 温室効果ガス管理および会計、www.iema.net

コラム1： 「Voluntary Carbon Market Insights 2018」より引用

カーボンオフセット創出者は、さまざまな活動を通じて、温室効果ガスを削減することができます。カーボンオフセットプロジェクトの主なカテゴリーは以下のとおりです。

1. 農業： 不耕起栽培への転換や化学肥料の使用量削減等、従来の農業のやり方を改良することによって温室効果ガス排出量を削減する。
2. 化学プロセスおよび工業生産： 工業プロセスを改良し、温室効果ガス排出量を削減する。
3. エネルギーの効率化および燃料転換： エネルギー効率を改善する、またはよりクリーンな燃料源に切り替える。
4. 林業および土地利用： 森林、土壌、草地などの土地を管理し、炭素の排出を防ぐ、および／または土地の炭素吸収量を増やす。
5. 家庭用機器： 木材を燃焼したり、その他の非効率的な種類のエネルギーを使用したりすることを減らす、またはなくすため、よりクリーンなストーブや浄水装置を供給する。
6. 再生可能エネルギー： 太陽光、風力、およびその他の再生可能エネルギー発電設備を導入する。
7. 輸送： 公共交通機関および／または代替交通機関（自転車等）の利用を増やし、自動車やトラック等の自家輸送からの温室効果ガス排出量を削減する。
8. 廃棄物処理： 廃棄物を回収して燃料とすることにより、埋立地や排水からのメタン排出量を削減する。

カーボンオフセットの選定条件：

タケダは、カーボンニュートラルへのコミットメントを果たすべく、高品質のカーボンオフセットを確実に調達するため、以下の条件および基準を適用して、投資すべきプロジェクトを選定します。

1. 追加性： オフセットの販売を通じて生み出される収益という追加的な経済的インセンティブが無ければ実行されなかったと思われるオフセットプロジェクトは「追加的」とみなされます。例えばあるプロジェクトが、プロジェクトを通じて達成されるであろうコスト削減や政府の資金提供、規制、もしくはその他の政策により、プロジェクト単独で実行可能である場合、当該プロジェクトはカーボンオフセット市場を通じて確保される投資に関わりなく存在したと思われるため、オフセットプロジェクトとして利用することができません。タケダは、自社の投資による支援なしには生成されなかったであろう削減活動に貢献することを目指します。
2. 計測可能性： 排出削減量を正確に定量化できるオフセットプロジェクトは、「計測可能」とみなされます。タケダは、科学的根拠のある広く認められた定量化プロトコルを持つプロジェクトのみに投資します。
3. 検証可能性： タケダは、プロジェクトによって達成される排出削減量を、独立した第三者の監査人が検証を完了したカーボンオフセットのみを購入します。

4. リークージ： リークージとは、プロジェクトの範囲内で行われる排出量削減が、その他の場所における排出量増加につながることで、タケダが投資のために選定するオフセットプロジェクトは、その活動の結果として排出のリークージまたは転移が生じないことを証明できなければなりません。
5. 持続性： タケダは、温室効果ガス排出量の持続的な削減をもたらすカーボンオフセットプロジェクトに投資することを目指します。林業プロジェクト等の土地を基盤とするカーボンオフセットプロジェクトにおいては、例えば森林火災や政治情勢の変化によってその削減効果が失われる可能性があり、持続性ではなくなるリスクがあります。持続性が懸念される場合には、かかるリスクを軽減するリスクバッファプール等の仕組みを導入しなければなりません。
6. ビンテージ： ビンテージとは、当該炭素削減が行われた年を指します。タケダは、温室効果ガス排出の時期と近い期間中に行われた炭素削減に投資することを目指し、オフセットすべき排出から3年以内のカーボンオフセットの購入を優先します。
7. 地域性： タケダは、私たちが所属するさまざまな地域社会において高く評価される良き一員となることに尽力し、ビジネス拠点のある地域内におけるオフセットプロジェクトへの投資を優先することを目指します。
8. コベネフィット： タケダは、社会のために共有された持続可能な価値を創出することに尽力し、炭素削減に加え、グローバルヘルスの改善につながるさまざまな利益を証明できるようなカーボンオフセットへの投資を優先します。

外部諮問委員会：

タケダは、気候変動に関する野心的なコミットメントを最高水準の誠実さをもって確実に果たすため、本文書に示されたガイドラインを遵守するだけでなく、外部諮問委員会を招集します。諮問委員会は、NGO、産業界、および／または気候科学専門家で構成されます。これらのメンバーは、タケダのカーボンオフセットの取り組みに関するレビューと助言を行います。

透明性、報告、および従業員の関与：

タケダは、自社のカーボンオフセット活動、およびカーボンニュートラルのコミットメント達成に向けた進捗状況を、毎年のサステナブルバリューレポートにより、透明性の高い情報開示を行います。公開情報には、購入されたオフセット合計、認証基準、プロジェクトの名称および対応するID、プロジェクトの場所および種類、オフセットのビンテージ、オフセットの状況、ならびにプロジェクトの独立検証レポートへのアクセス、が含まれます。またタケダは、プロジェクトの選定に従業員を関与させるプログラムを開発することにより、気候変動への取り組みに関し、従業員のさらなる関与と活発な活動を促します。

2020年1月